



JOGMEC

# カレント・トピックス

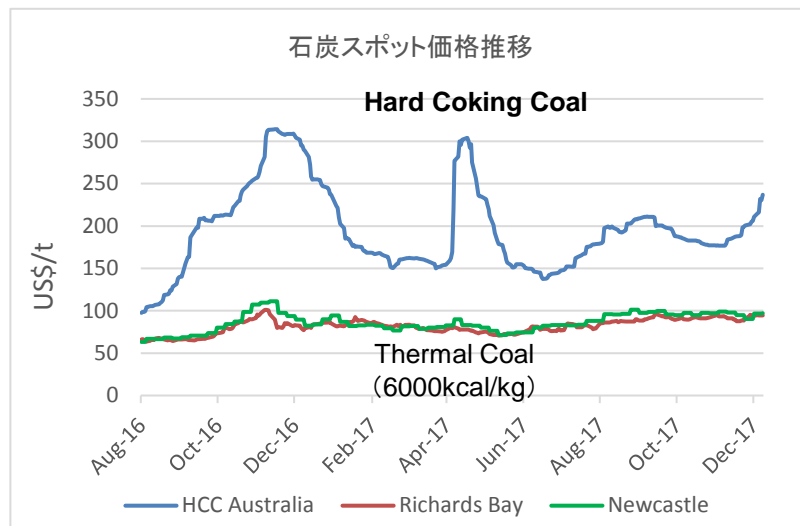
独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

## 石炭マーケット情報（2017 年 12 月）

石炭開発部石炭開発課 國吉

石炭マーケットは 2016 年から大きく変化し、価格も大きく変動している。ここでは、2017 年の動向について限られた範囲ではあるがレビューして見る。

### 1. 国際価格動向



(出所：Argus Media Limited)

#### 【2017 年の動き】

##### (1) 一般炭・・・価格高止まり

- ✓ 2016 年に中国の炭鉱稼働制限等により 6000kcal 炭 FOB Newcastle110\$/t 以上に高騰した一般炭価格は、制限緩和により 2～5 月は一旦 70\$/t 台に下落。
- ✓ その後、以下の要因により再び上昇し、100\$/t 近い水準に高止まりしている。
  - ・供給側：インドネシアにおける豪雨（本来は乾期）・・・6 月に輸出量が大幅に落ち込み。  
豪州 NSW 州の Glencore が操業する炭鉱で 6～10 月に断続的スト。  
中国の構造改革進展により需給調整機能が働くようになっている。
  - ・需要側：中国の工業生産増加により電力需要が増加。更に夏の高温、渇水/洪水等により石炭火力増加。  
インド CIL の需要読み違いにより、インド国内の石炭在庫が逼迫  
⇒輸入減少傾向にあったインドの需要家による海外炭引合が急増。

韓国、台湾、ベトナム等のアジア諸国の需要が堅調。

- ✓ 直近では、豪州、南アでスト終結するも、中国で暖房用の天然ガス不足等の上昇要因があり、再び 100\$/t を突破した。

✓

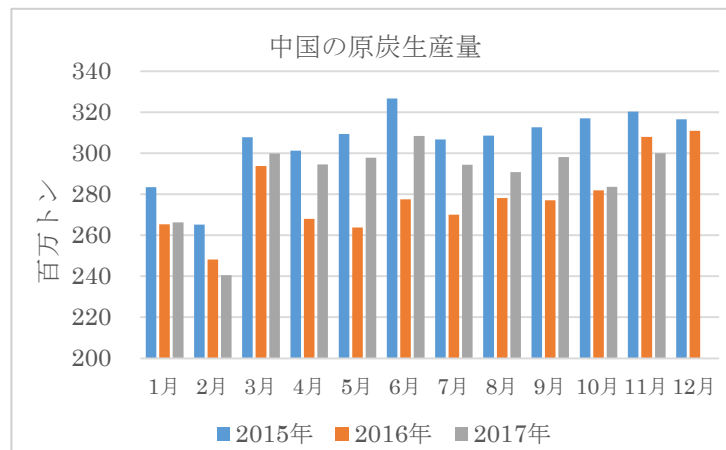
## (2) 原料炭…高水準での乱高下

- ✓ 一般炭同様年初に下落したが、3月末に豪州 QLD 州にサイクロンが上陸し石炭輸送鉄道網が寸断。300\$/t 超に再度急騰。
- ✓ サイクロンの影響が無くなり、一旦 150\$/t に下落したが、その後世界的な鉄鋼需要が好調なことや、豪州 NSW 州の Appin 炭鉱での生産障害等により 200\$/t に上昇。
- ✓ 10月には、中国の冬期の鉄鋼生産制限による需要減少見込み等から一旦値下がりしていたが、11月下旬より再度上昇に転じ、12月8日現在 230\$/t を超えている。10～11月に船積設備メンテナンス等により豪州 QLD 州 Hay Point 港からの輸出量が減少し、長期の滞船が続いていることが主要因と見られている。

## 2. 主要輸入国の状況

### 【中国】

#### (1) 中国石炭生産



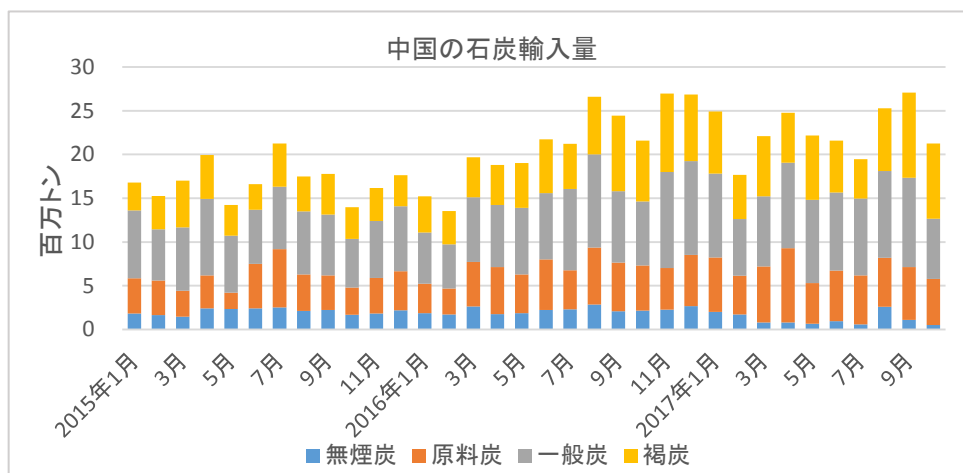
(出所：国家統計局)

中国の石炭生産量は、2016年は炭鉱稼働制限により前年比1割近く減少した。2017年は前年より増加しているものの、石炭産業の構造改革が進展している効果により需要に応じた生産が出来てきている。1～11月の生産量は31.4億トンで、前年同期比3.7%増加。11月は3.0億トンで、前年同月比▲2.7%となった。

#### (2) 中国石炭輸入

石炭輸入量は2016年夏以降、概ね月間2千万トンを超える高いレベルで推移している。炭種別には北朝鮮からの輸入を制限している無煙炭以外は全ての炭種で増加している。

2017年11月の輸入量は2,205万トンで、10月より3.6%増加したが、前年同月比では約18%減少した。2017年1～11月の中国の石炭・褐炭の合計輸入量は2.48億トンで、前年同期比8.5%増加している。

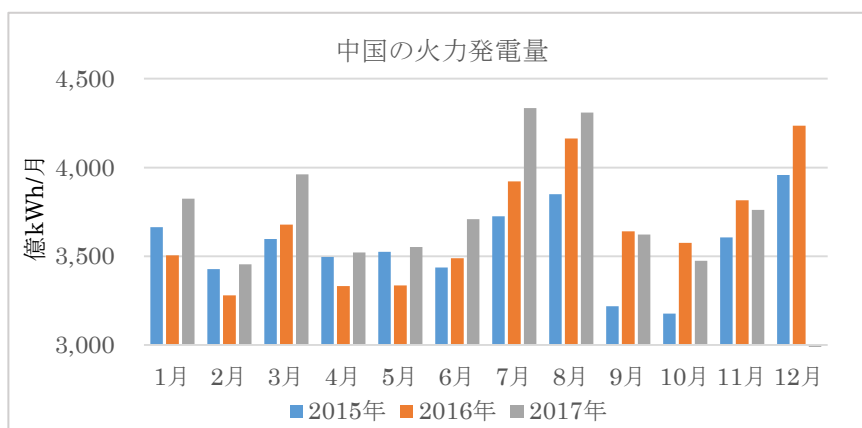


(出所：海関総署)

### (3) 中国需要動向

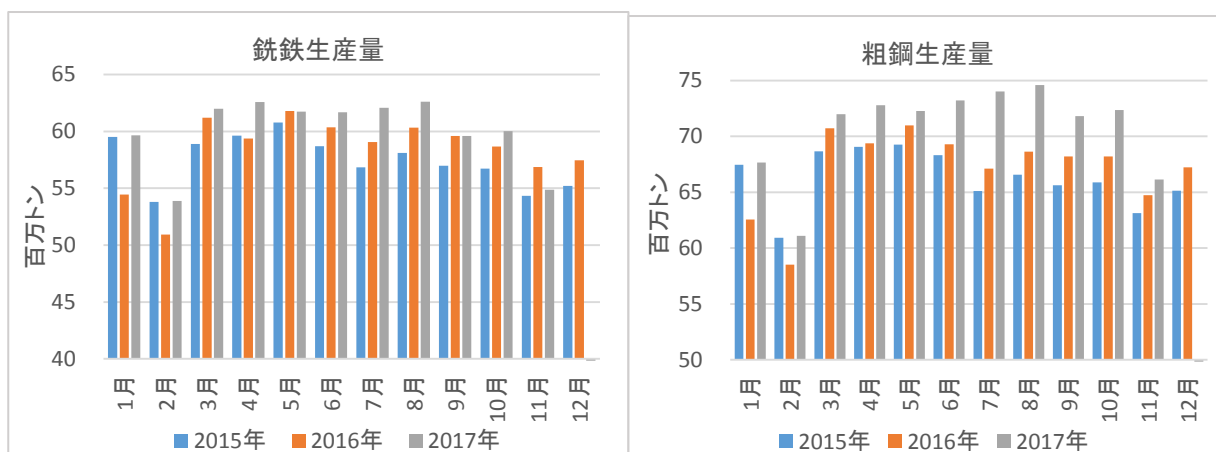
#### ① 発電

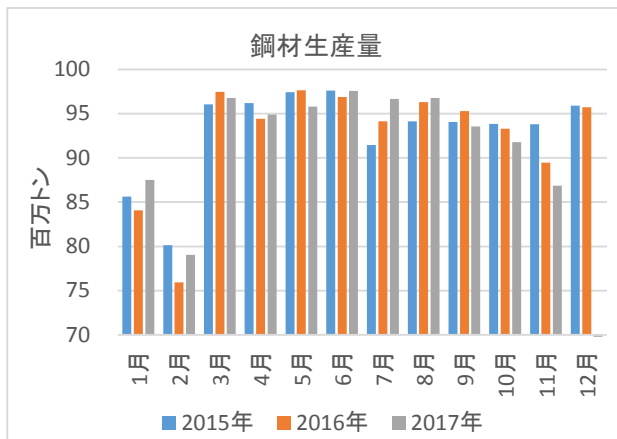
中国の火力発電量は、工業生産の回復等による電力需要が増加し、2016年後半から伸びている。特に2017年の夏場は水力の出力低下もあり、7月には前年比10%以上の増加となった。9月以降は電力総需要の伸びが低下したことにより、火力発電量は前年割れとなっている。



(出所：国家統計局)

#### ② 鉄鋼





(出所：国家統計局)

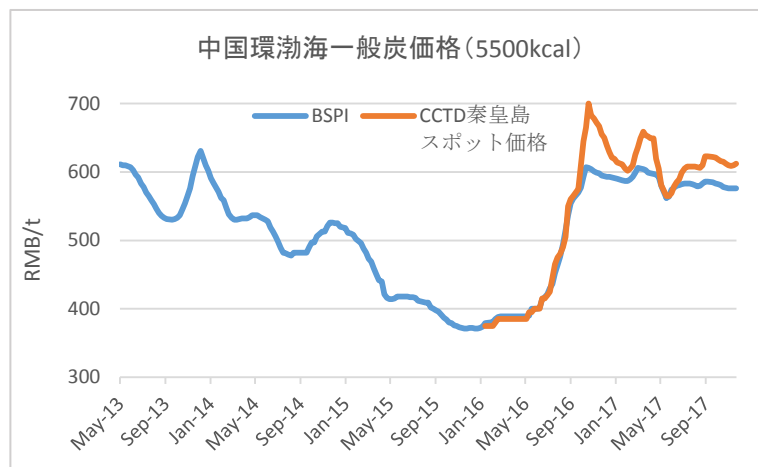
中国の粗鋼生産量は、固定資産投資や自動車生産の好調に支えられ、2017年1~10月は前年同期比6.1%増加した。ここにはスクラップを原料とした「地条鋼」と言われる違法な鉄鋼生産が厳しく取り締まられ、正規の生産に振り替わった影響も大きい。地条鋼の原料となっていたスクラップが利用されたこともあり、銑鉄生産量は粗鋼ほどは伸びず、1~10月の銑鉄生産量の前年同期比の伸びは2.7%に止まった。

11月には、冬期の大気汚染対策を目的に北京周辺都市での鉄鋼生産制限が一部で開始された影響もあり、粗鋼生産量は前年同月比2.2%増と減速、銑鉄生産量は▲3.5%減となった。

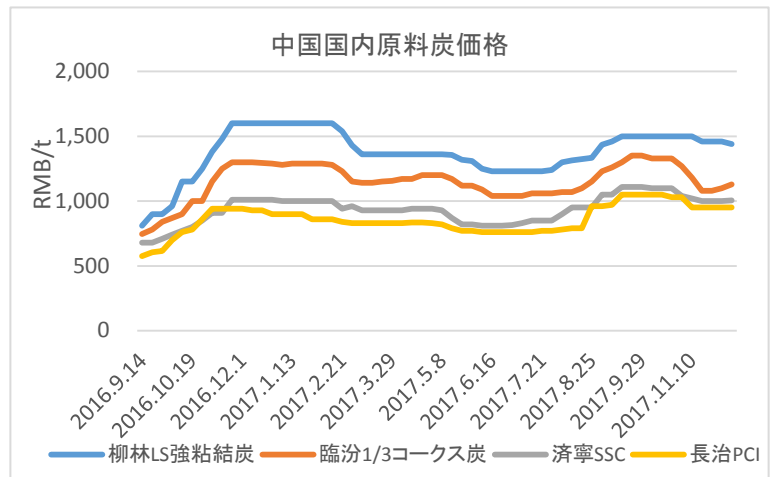
鋼材生産量の伸びは粗鋼、銑鉄より更に低く、1~11月の生産量は前年同期比1.1%増に止まっている。鋼材生産の統計には地条鋼が含まれていた可能性もある。その影響もあり、2017年1~11月中国の鋼材輸出量は前年同期比▲30%以上減少している。

#### (4) 中国国内石炭価格

中国国内の一般炭価格の指標である環渤海の価格は、2016年秋に急騰した後、高止まりしている。中国政府は石炭及び電力企業の経営や電力価格の安定のため、電力用炭の目標価格を500~570元/tとしているが、上限に張り付いた状況が続いている。2017年に政府主導で大手石炭企業と発電企業は、基準価格(535元/t固定)と市況価格の比率を1:1とするフォーミュラでの長期契約を締結しており、2018年も同様の通達がなされている。



(出所：秦皇島煤炭網、中国煤炭市場網)



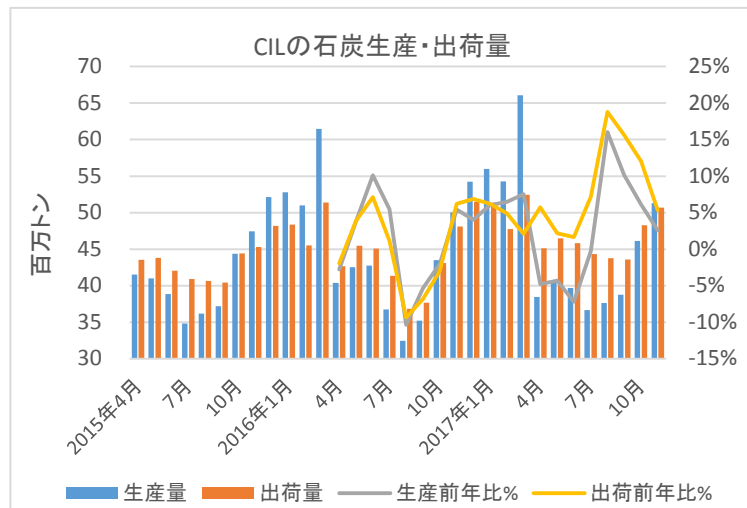
(出所：中国煤炭資源網)

原料炭の国内価格については、一般炭のような政府主導による基準価格の設定はなく、市場原理に委ねる方針である。価格水準は一般炭同様高止まりしているものの、乱高下する国際価格と比較すると変動幅が小さくなっている。10月以降は一級品を除き価格が低下傾向にあったが、直近では若干反発が見られる。

## 【インド】

### (1) インド石炭生産

インド国内炭生産の8割を担う Coal India Limited (CIL) はインド政府の一般炭輸入ゼロを目指す方針を受け、石炭生産を増加させているが出荷が見込みどおり伸びず、2017/18年度に入り減産・在庫消化を進めていた。その中で電力需要が増加したため CIL からの石炭供給が追いつかず、8月に入り多くの火力発電所で石炭在庫が逼迫する事態となった。一般炭輸入を抑制してきたインドの海外炭調達量の急回復が一般炭国際市況を下支えした。

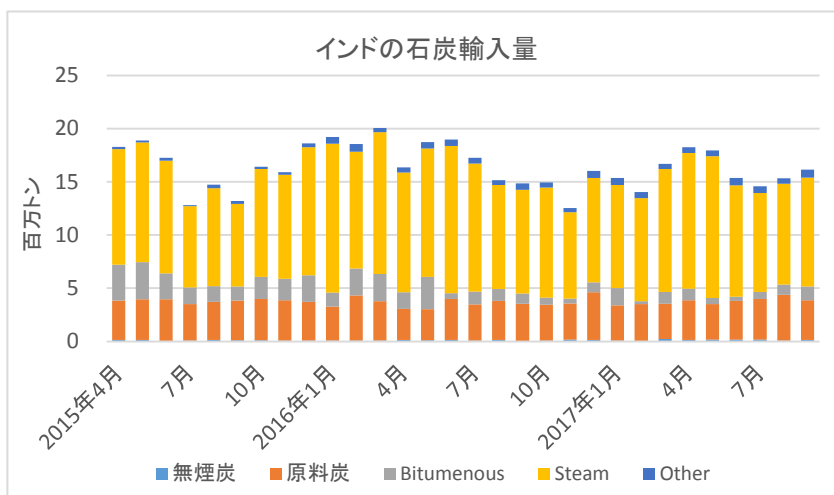


(出所：CIL ホームページ)

### (2) インド石炭輸入

インドの石炭輸入量は 2014/15 年度の 212 百万トン をピークに、2015/16 年度 204 百万トン、2016/17 年度 191 百万トンと減少傾向にあり、2017/18 年度 4~9 月の輸入量も前年同期比▲3.6%減

少している。しかしながら、8月の一般炭在庫逼迫により（一時的に）増加に転じていると見られる。インド国営主要港における一般炭取扱量は、前年同月比10月：13%、11月：21%増加している。

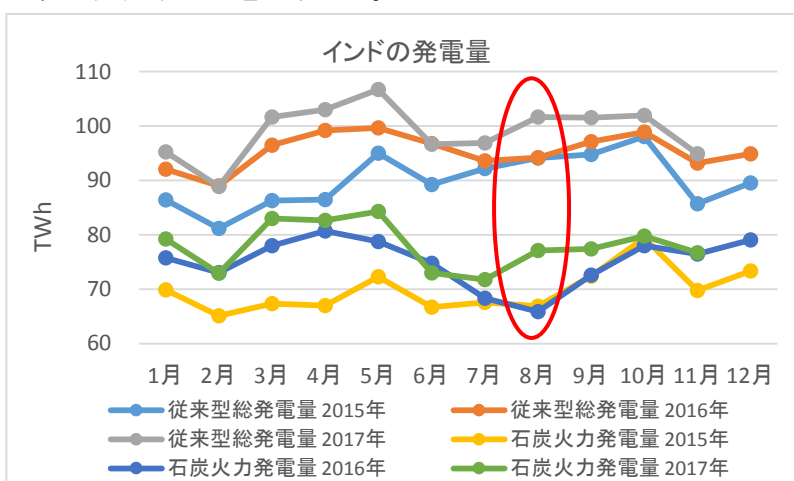


(出所：インド貿易統計)

### (3) インド需要動向

#### ① 発電

インドの総発電量の前年度に対する伸びは2014/15年度(2014年4月~2015年3月)の8.8%から、2015/16年度は5.7%、2016/17年度は5.8%に低下している。石炭火力発電量の伸びも2014/15年度の12.1%から、2015/16年度は7.7%、2016/17年度は5.6%に低下している。2017/18年度もその傾向は続いており、4~11月の石炭火力発電量の前年同期比の伸びは4.6%となっている。しかしながら、8月だけは総発電量が8.4%伸びたのに加え、水力発電量が前年同月比▲12.1%落ち込んだ影響もあり、石炭火力発電量が17.1%の大幅な増加となった。石炭生産を抑えていた中で、発電用需要が急激に増加したため、石炭在庫の逼迫を招いた。

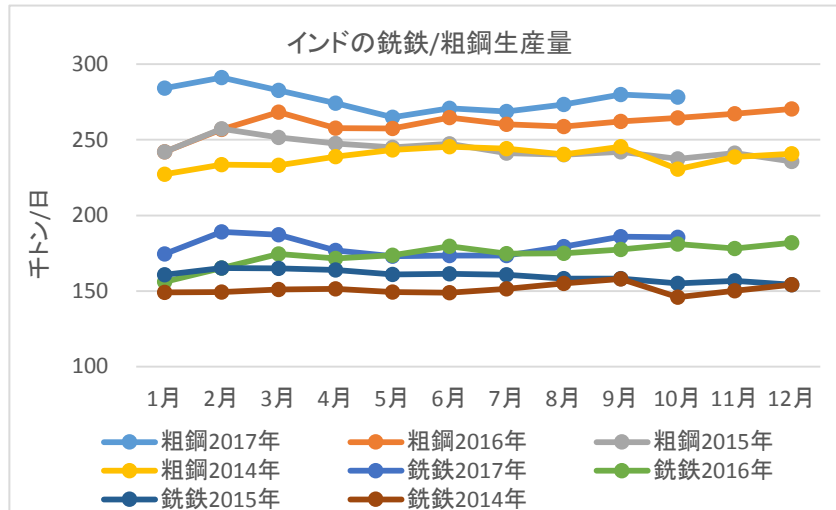


\*従来型：火力、水力、原子力

(出所：インド中央電力庁)

## ②鉄鋼

インドの鉄鋼生産量は堅調に増加している。2016年の粗鋼生産量は前年比7.2%増加して95.5百万トンとなり、世界第3位となっている。2016年の銑鉄生産量は粗鋼生産量を上回る伸びを示し、前年比9.1%増の63.7百万トンとなった。2017年も伸び率は昨年を下回るものの、順調に生産量を増加させている。

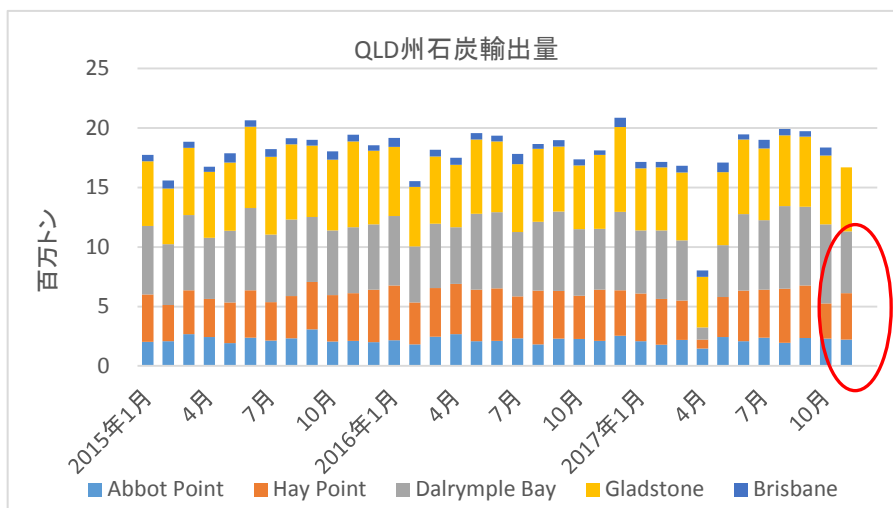


(出所：World Steel Association)

## 3. 主要輸出国の状況

### (1) オーストラリア

原料炭の世界最大の輸出元である豪州QLD州は、2011年以降、石炭市況低迷時も含め生産・輸出量を増加させてきたが、2017年は3月末に上陸したサイクロン“Debbie”による被害の影響で輸出量が前年比減少する見通し。また、10~11月にはHay Point、Dalrymple Bay両ターミナルからの輸出量が減少し、市況上昇の原因となっている。

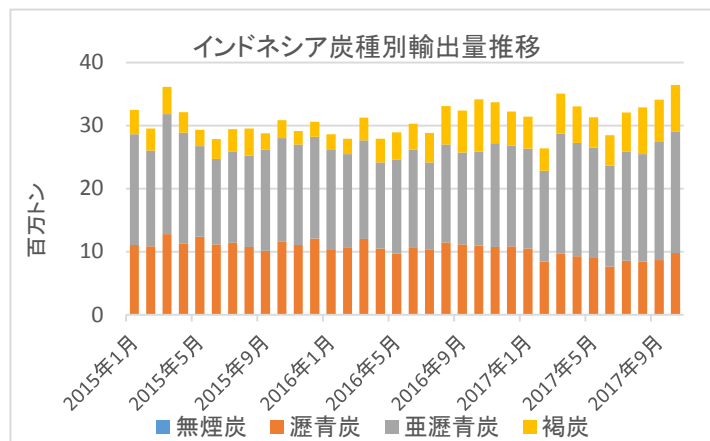


(出所：QLD州各港湾ホームページ)

NSW州 Newcastle 港からの輸出量も2017年は前年比2~3%減少する可能性が高い。

## (2) インドネシア

インドネシアの石炭輸出量は2013年の4.24億トンにピークに、その後中国等の輸入減少により、2015年には3.66億トンに減少した。しかし、2016年後半から中国やベトナム等アジア諸国の輸入増加により、インドネシアの輸出量は増加に転じている。2017年も輸出量増加の傾向は続いているが、天候による変動が顕著に見られ、2017年は2月と6月に一時的に輸出量が急減し、アジアの一般炭市況に影響を与えている。



(出所：インドネシア貿易統計)

以上

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。